竹竿好きがホンネで語る

なぜ「バンブーロッドじゃあないんですか」を好き勝手に語ってみる。

四角と五角の話の前に

●あたりまえに使っている人もいれば、あえて避ける人、必要以上にありがたがる人もいるバンブーロッドの世界。

●ふだんから自分の釣りにバンブーロッドを使っている釣り人3人に、竹竿についての本音を語ってもらった。お3方とも、自分の釣りの楽しさを追求することにかけては札付きの享楽主義者ばかりだ。（ヘンタイとも言う）

座談会に参加してくれた皆さん（敬称略）

平野貴士（36歳／東京都／サンスイ池袋店）

池田和成（56歳／東京都）

北岡勝博（38歳／京都府）

司会　本誌編集部

―　よく「自分はまだ竹竿を持つ域に達していません」という声を聞きます。「竹竿は高価だ」とも。しかし10万円するグラファイトロッドもあれば3万円で手に入るいい竹竿もある。

平野　そんなに違いはありません。

北岡　竹竿は弱いから、フライが引っかかったときにぎゅうっと引っ張れない、車に入れっぱなしにできないとかも聞きますね。

―　グラファイトだってぎゅうっとは引っ張らない（笑）

池田　最初に「竹竿は難しい」っていう先入観をもつとなかなか消えづらいでしょう。

平野　竹竿は丈夫じゃない、と思い込んでいる人は多いです。踏んだってぜんぜん大丈夫ですけどね。

―　いや踏まないほうがいいと思うけど（笑）

平野　基本的な手入れは大切です。つなぐときにねじらない、フェルールはきれいにしておく、とか。炎天下の車に放置するのは論外です。寒すぎる日に持ち出すのもよくありません。

北岡　ラインとリーダーをリールに巻き込んだ状態から、竹竿を曲げてジーッとフライを引っ張り出す人がいますね。

平野　よく言われるように、トップガイドからラインまで引き出しておいて、リールの底に一回転させてガイドの上の方にフライをひっかけておくほうがいいです。すぐに投げられますしね。そういうちょっとした技を、意外に知らないフライフィッシャーが増えている気がします。

―　最近のグラファイトはぴんぴんの硬い竹竿が多いですね。

平野　そこは違います。グラファイトにもグラスにもバンブーロッドにも、硬いの柔らかいのがある。バンブーはその幅が広いだけの違いでしょう。バンブーロッドには妙な気構えがあるような気がする。

池田　竹竿を売るお店の姿勢にも問題があると思います。同じ値段でも竹竿だけはガラスケースに入っている。試し振りをさせてもらえるお店も少ない。

平野　たしかに突出して高価なバンブーロッドはありますけど。

―　素材も同じで外見も似てい

この座談会は今年２月に山梨県桂川忍野地区の民宿で収録された。写真の背景にコタツや湯呑みが映っているのはそういう理由です。翌日の「四角と五角の振り比べ」を控えて、テンションの高い３人。上写真の左から平野さん、池田さん。下写真は北岡さん。

グラファイトにもグラスにもバンブーロッドにも、硬いの柔らかいのがある。バンブーロッドはその幅が広いだけ。（平野）

れば差が分かりづらい。価格で価値は決まらないけれど、判断基準にはなりやすい。値付けは難しいですね。

竹竿でなくては、の本当の理由

— さてこれまでも何十回も繰り返されてきた問いかけです。なぜ竹竿なんですか。

平野 それはもう、やっぱり好きだからですとしか答えようがないです。伝達力が伝わりやすい、バラしづらい、歴史の重みがある…、結局は好きだからということに落ち着く。色々と理由をくっつけられるところが、バンブーロッドの魅力なのかなという気はします（笑）

— バンブーロッドには人それぞれの楽しみ方、個性、ストーリーがある。そのファンタジーにこそ価値がある。

ふだんカーボンで釣っている川を竹竿で釣ったらどんな風かな、という興味がありました。そしたら、めっちゃ楽しかった。（北岡）

平野 そういうあいまいなことを言ってるから、とっつきにくいって言われるんです。

— あいまいなことを言って楽しむのが、釣り雑誌なんだもの（笑）

平野 だからそれがだめなんです（笑）

北岡 僕の場合は、同じ釣り場でカーボンで釣ってもいい、竹竿でも釣ってみたいなあ、と思ったのが最初です。カーボンでも色々なアクションの竹を楽しんでいましたから、素材の違いを楽しみたかった。ふだんカーボンで釣っている川を竹竿で釣ったらどんな風かな、という興味がありました。

— やってどうでした？

北岡 めっちゃ楽しかった（笑）まず操作する上での違和感はまるでなかった。でも竹竿には、それまで使っていたカーボンやグラスとは違った感触があった。

平野 振った時のラインスピードの感覚や曲がりのフィーリングは、竹竿は独特の気持ちよさがあります。射程の距離感もいい。竹と竹以外の素材は本質的に違うと思います。竹は「ちょうどいい」とでもいうのか。

— フライフィッシングのリズムに竹竿が合っているということでしょうか。

平野 いま僕たちが楽しんでいるフライフィッシングの基軸は、100年くらい前にアメリカで発展したものです。そのとき使われていたのはバンブーロッドだった。合っていて当然といえば当然です。

北岡 僕は初めて竹竿で魚を釣ってネットに入れて竹竿を横にポンと置いて、客観的に俯瞰したときに、単純に美しいなあと思いました。

平野 釣りをよく知らない人でも、よくできた竹竿は魚と一緒に置いたときに「きれいですねえ」と感動してくれます。その味わいは竹ならでのものがありそうです。

竹竿とグラファイトはどこが違うか

平野 竹竿の特徴的な点は「こだわりどころが多い」こと。シャフトだけ

バンブーロッド
100本以上
国内随一の在庫本数
出品募集中。プロ・アマ不問委託販売

Gauche Giulia 7301MA.S. ゴーシュ・ジュリア
フェルール 竹スリップオーバー／アルミ無垢ポリッシュ リング&リング 2ピース ミディアム
#4 7'3" 真竹ソリッド・ガシュー デモ 30,000円(税込)

Gauche Giulietta 7001MA.S. ゴーシュ・ジュリエッタ
フェルール 竹スリップオーバー／アルミ無垢ポリッシュ リング&リング 2ピース ミディアムファスト
#4 7'0" 真竹ソリッド・ガシュー デモ 30,000円(税込)

Gauche Giulia 7701MA.S. ゴーシュ・ジュリア
フェルール 竹スリップオーバー ／ブラス無垢 キャップ&リング 3ピース ミディアム
#4 7'7" 真竹・ソリッド デモ 40,000円(税込)

Gauche Giulietta 69 ゴーシュ・ジュリア
フェルール 竹スリップオーバー スレッド全巻／ハードクローム細軸／アルミ無垢 ヘアライン キャップ&リング
黒檀 #3 6'9" 真竹ノードレス SOLD OUT
トチ #3 6'9" 淡竹 ソリッド・ノードレス
シナ #3 6'9" 淡竹 セミホロー・ノードレス
各 50,000円(税込)

ノードレス&ハイブリッド メダケ(M)×トンキンケーン(T)
ハイブリッド M4T2 #3 6'9" 27,000円(税込)
ハイブリッド M4T2 #3 7'8" 27,000円(税込)

〈店内のバンブーロッドが増えました〉
★ごめんなさい、通信販売はやっていません。
★佐久、上州、上野村各漁協の券を扱っています。
★「中山道の釣り旅」をwebに連載中です。
トンキンケーン3.6mの1本物があります

アンクルサム
営業時間AM9:00～PM11:00年中無休
車がすいてから、ゆっくりおでかけください。
〒379-0222 群馬県安中市松井田町松井田379
TEL.&FAX. 027(393)2196

だって貼り合わせ、節の感じ、繊維の走り、細かく見れば見るほど見どころが出てくる。テーパーも分かりやすい。先日ニュージーランドに行ったんです。いつもは竹竿なんですけど試しにグラファイトロッドを使ってみました。これ素晴らしい竿なんです。でもいい魚を釣って横に竿を置いたときに印象が薄かった。ああやっぱり竹竿で釣った方がよかったなあ、って思っています。…まあ自分はビョーキかも知れませんが。

池田　自分で分かってるんだ（笑）

―　だからヘンタイって言われるんですよねえ（笑）

平野　自分の中の満足感が違うんです。

―　キャスティング能力とか、魚のランディング性能じゃあないんですね。

平野　じゃ、ない。

―　やっぱりファンタジーだな（笑）

北岡　ぼくは竹竿とカーボンを両方使うけれど、そういう風に感じたことはないな。

平野　その時に持ってきていない竿を釣り場で思い出す。「この川のこの状況だったら、あの竿を使いたかったなあ」という思い入れは、一本一本に個性があって表情が違う竹竿の方が持ちやすい。逆に、新しい竹竿に触れたとき「この竿はあの川のあのポイントで使いたい」と思えると、その竹竿が欲しくなる。そういうイメージはグラファイトには僕はわかないんです。

―　わきませんか？

平野　わかないですね。だって工業製品はみんな同じじゃないですか。グリップの形も同じだし。アクションだって似たようなものだし。

―　グラファイトにだってグラスにだって個性的な竿はあると思いますよ。同じ番手だってぴんぴんもあれば、ぐにゃぐにゃもあるし全然違う。デザインだって、カスタマイズできるのはグラファイトも竹竿も一緒でしょう。

平野　ええ、分かってます。だからまあ、竹竿に関して、僕の意見はあまり参考にならないんです。愛しちゃってるから（笑）

フライロッドのデザインは、だんだん均一化の傾向がある。ここ10年くらいのマスプロのフライロッドは、個性の主張が少ないような気がします。（池田）

竹竿は売りづらい、分かりづらい

池田　一般的にフライロッドのデザインは、だんだん均一化の傾向はあるかもしれませんね。20年くらい前は、グラファイトロッドにも色々なアクション、デザインの商品が出ていました。スウェルバットのグラファイトとか、グリップだって個性的なものがあった。ブランクの色もあれこれあった。ここ10年くらいのマスプロのフライロッドは、個性の主張が少ないような気がしますね。

平野　誤解のないように言うと、ぼくは一応毎年、グラファイトロッドの各メーカーの、いちばんいい最新のモデルを買っているんです。

―　自分で買っているんですか。

平野　そりゃ買います。だって自分で買わないと、お客さんにおすすめできないじゃないですか。

―　なかなかできないことです。

平野　店舗で売る側にも、相当の知識と経験が必要だと思います。単にキレイだから売っていますではあまりに不親切です。

―　釣り具を買う方だって楽しく買い物をしたい。お店の人が自分より知識がなくてただ商品を並べているだけだったら、実店舗に行く意味がない。売る方だって「どこで買ったって一緒」って言われるのは腹が立つし、つまらないと思うんです。

池田　売る側にもその人なりの意見がないと、自信を持って薦められないでしょう。

―　竹竿はマーケットも小さいから、小売りの段階でショップとユーザが、きちんとした知識を共有しづらいかもしれない。グラファイトロッドは工業製品としてのカタログ、スペックが明示されているからわかりやすい。

北岡　バンブーロッドは同じ竿でも振る人によって、インプレッションが変わってくるのもネックだと思います。10人10様の印象がある。振る人のテクニックも問われます。

平野　乗せるフライラインのデザインと番手、合わせるフライリールの形状、

当日は大雪。零下になるクルマの中に大切な竹竿を放置できないと、持ち寄った竹竿を部屋の中に持ち込んだ。誰からともなくコタツの上にバンブーロッドを広げはじめ、ためすすがめつ勝手な感想を言い合ううちに夜がふけていった。「見るべきところが多い、語るべきことが深い」のはバンブーロッドならではかもしれない。